

砂川市長 善岡雅文 様

砂川市庁舎整備検討委員会における、市庁舎の整備に関する
委員の意見をここにご報告いたします。

平成二十七年十一月二十五日

砂川市庁舎整備検討委員会

委員長 小関 敬

「庁舎の現状について」

- ・ 建設当時はホテル調の造りで立派な建物であったが、時代の流れとともに不便な建物になってしまった。
- ・ 正面の階段、上階への階段、北庁舎への接続、エレベーター無し、等様々な点において、特に高齢者や障害者の方には非常に使いづらい。
- ・ 一階は一応車椅子対応になっているが、決して使いやすい設備ではない。
- ・ 建物、設備の老朽化、空調設備不備など、来庁者にも職員にも劣悪な環境である。
- ・ 地震が少ない地域とはいえ、耐震性の低い建物が災害対策本部に位置付けられているのは問題。
- ・ 水害を想定すると、電気関係設備等が地下にある為、たちまち市役所機能が麻痺する可能性が高い。

「現庁舎の活用について」

- 補修しながら使い続けるにしても、構造的に不便な建物であることには変わらない。
- 庁舎にお金をかけず、他に廻すべき、という考え方は疑問であり、庁舎建設のような多額の予算は簡単に他の事業に廻すことが出来るとは思えない。
- 部分改築、全面改築という手法で、新築に比べてコスト的、耐用年数的にどれ程のメリットがあるのか疑問。
- 京都の市役所などは築 100 年以上の建物を利用しており、古い建物、歴史のある建物は、それを活かしながら利用することもひとつの理想であるが、現実的にはバリアフリー等の問題もあり、今の庁舎を使い続けることには不安を感じる。

「既存公共建築物の活用について」

- 実際のところ見えそうな建物が見当たらない。
- 市民に便利な設計を想定していない建物の活用には無理がある。
- 現在地から離れたところの施設を活用する場合、交通の便が悪いところに庁舎が出来ることになりかねない。

「建替えについて」

- 新築場所は利便性を考えると現在地が最も良い。
- 新築の際は、市の顔とも言える駅前地区が寂れる一方である現状を踏まえ、再開発と併せて検討して頂きたい。
- 国道沿いに新築することで市内商業の活性化につなげて頂きたい。
- 新築検討の際は、いかに経済効果を伴うかを良く考えて計画するべきである。
- 駅東地区に新築する場合は、東西の交通アクセスが不便なので、駅をまたぐ形の庁舎になると便利。
- 防災面を最優先して考えると、旧北高跡地が最も安全である。
- 水害のリスクも踏まえて市立病院を建設したのだから、市庁舎も同様に考えて良いのではないか。
- 新築場所は、オアシスパークの眺望を生かした場所で、複合施設を検討するべき。
- デザインについて、国立競技場の二の舞にならないよう、市民の声をしっかり取り入れて決めていくべき。

- 新築に際しては、現在分散している部署(教育委員会、ふれあいセンター)も同時に入居し、ワンフロアで市民が用事を済ませることが出来る庁舎が望ましい。
- 新築に際しては、市内の他の関連施設(砂川市総合福祉センター、砂川商工会議所、砂川市地域包括支援センター、砂川観光協会等)も同時に入居できる複合施設として検討して頂きたい。
- テナント貸与が可能な庁舎にして、様々な店舗等の併設により、人が集まることができる庁舎を考えるべき。
- 現在地で建替える場合は、床面積をコンパクトにし、今より高層化することで敷地を確保し、駐車場の確保などに充てるべき。
- 現在地での新築について、仮庁舎の建設および移転費用と用地買収等による移転新築とで、どの程度コスト差があるのか比較して判断すべき。
- 現在地周辺の土地を有効活用して新築すれば、仮庁舎の建設や仮移転を要さないで済む。
- 議場や議会関係施設をもっとコンパクトなものにし、傍聴席の改善やインターネット配信も検討するべきである。

- ・ 会議室など、音声聞きやすいように、音響面を考慮して建築すべきである。